

1年間の生徒会活動のまとめ～後期生徒総会～

今学期も残り2週間弱となりました。今週末から三者懇談も予定されています。2021年もあと少しとなり、様々なところで振り返りが行われています。この2学期の振り返りを学級担任と行い、3学期や来年に向けて大きく成長できるようにしていきたいと思います。

さて、12月13日(月)5、6校時に後期生徒総会が体育館で行われました。この後期生徒総会は、1年間の生徒会活動の成果と今の玉幡中の課題について、みんなで考え、良き伝統を下級生に伝えていく場だと私は考えています。また、全校生徒全員で決めたことを、全校生徒でやり続けて、目指した玉幡中の姿が、どれだけ達成できたかを確認する大切な場となります。また、お互いの意見交流(議論)を通して、着実に次へとつなぐための貴重な機会となります。これまで生徒会活動を率先してリードしてくれた今年度の生徒会本部のみなさん



には、新型コロナで多くの制限がある、厳しい状況の中で、力を合わせて生徒会活動の推進のために頑張ってくれたことに、深く感謝しています。コロナと向き合いながらも、玉幡中の伝統を守り、よりよい学校づくりを目指して頑張ってくれた生徒会本部のみなさんに、敬意を表します。その想いは、全校生徒に確実に届いていたと思います。今年度の生徒会テーマ【HERO】(全校生徒一人一人が輝ける、主役になれる玉幡中になってきた。玉幡中にはたくさんの「HERO」がいる。普段の学校生活からも互いを思いやり、困っている人がいたら声をかけるなど意識することができていた。その結果、様々な生徒会活動に対して例年よりも協力してくれる人が増えた。～生徒総会資料より抜粋～)を意識して生活できていたか、その他重点項目、緑水祭について意見が交わされました。3年生からの意見が多く、今年の活動を振り返りながら、改善するためにはどうしていったらいいかなどの意見が多く、これからや来年度への期待や想いを強く感じることができました。時間の制約があり、考える場面や議論する場面をあまり設定することができなかったことは残念でしたが、来年度に繋ぐ素晴らしい機会となったと思います。

◇質問は何のために

「質問ありますか?」議長が最初に質問を取るのはなぜでしょうか?それはわからないことがあると意見が言えないからです。つまり質問は意見を言うためにあるということになります。形式的にしているわけではありません。でも質問する側にはいくつかのねらいがあります。①質問することで相手の本当の考えを聞き出すため②質問しながら反論する(反対意見の一つ「本当にそれでいいの?」)など。質問は、実は奥が深いのです。質問を重ねた人がいました。その姿勢が今社会で求められています。簡単に「はい、わかりました」と言わない力、玉幡中に芽生えた議論する力、みんなで伸ばしていきたいと思いました。



価値ある体験の始まり～生徒会役員に挑戦する4名と共に～

12月7日(火)には、令和4年度の生徒会立会演説会が、8日(水)には投票が行われました。立候補した4名が自分の「理想の学校」を語り、4名が責任者として応援演説を行いました。合計8名の言葉の中から、玉幡中の来年度の方向性がわかります。「あいさつ活動の推進」「奉仕活動の充実」「全校の意見を取り入れた緑水祭」「明るく楽しい学校」「魅力ある学校」「最高の中学校生活をつくる」……。挑戦者が想いを語ったあと、全校生徒が温かい拍手で応えていました。選挙で選ばれた4名と事務局員で加わる数名がリーダーとして来年度の玉幡中を引っ張っていく、しかし、挑むのは全校生徒全員ということをお忘れしないでほしいと思います。

◇勝村陽葉さん 私は生徒一人一人が自分から積極的に活動できる、意欲的になれる学校をめざしていきます。

◇大沼優希さん 先輩方がつくってきた活気ある玉幡中学校をさらによいものにするために、みなさんの意見をしっかりと聞き、明るく魅力ある学校になるように全力を尽くします。

◇中村夢吹さん 今まで取り組んできたあいさつ運動を継続し、あいさつが活発な学校をつくっていきたくと思っています。

◇村山惺七さん 玉幡中学校の礼儀正しさ、あいさつする姿、整理整頓する姿などよいところを全員が今以上に意識し、「最高の中学校生活」をみんなで作ってあげていきたいです。



先輩の作文から学ぶ～自己を見つめて～

「私は第一志望校を受験します」ついこの間まではそう思っていました。しかし、私が受験するのは第二志望の高校です。これを決めるにあたってものすごく悩みました。今まで自分は第一志望の高校に行く事しか頭になく、広い範囲に目を向けることができませんでした。2学期末に行われた学力テスト。私はどう勉強したら良いかわからず、中途半端なまま受けたテストでは、ビックリするくらい悪くて、とても第一志望校にいけるような成績ではありませんでした。その後行われた懇談でも第一志望校は難しいと言われてしまいました。私は、ショックで、ショックで、もう目の前が真っ暗でした。その夜も、私に話をしようとする両親を避け、部屋ですっと泣いていました。不安と自分の情けなさにあきれてしまいました。それから毎日のように両親に進路のことを問いかけられました。私はそれがたまらなく嫌でした。自分の弱いところをつかれるようで、こわかったからです。また、その問いかけに答えることができない自分が本当に嫌でした。でも、進路からは逃げられません。刻々と迫ってくる受験の日。私はこのままではいけないと思い、必死で考えました。そのとき、一番最初に浮かんだのは「部活動」でした。毎日のいつ終わるかわからない練習。その練習の中で私が学んだことは逃げるのではなく、「実行する勇氣」。逃げずに前に進んでいくことです。そして、両親と向き合うことを恐れず、自分の中にある「薄っぺらいプライド」をすべて取り払いました。そして、取り払って残っていたのは何もありませんでした。私が第一志望校にいきかけたのは薄っぺらいプライドのためだけでした。そうしていくうちに私は将来のことについて考えました。私は正直言って将来何になるかは決まっています。そうなれば、将来の夢を決めるのに、もう少し時間が必要です。そこで、普通科ならまだ将来の夢を考える時間があると思い、第二志望校の普通科を選択しました。ここまで決めることができたのは先生、両親、そして友だちがいたからです。私は進路を決めていく上で、こんなにたくさんの人に支えられていたことに気がつき、感謝の言葉である「ありがとう」という言葉がこんなに重みのある言葉と気づきました。私は合格する事ができたら、心の底から感謝の気持ちを「ありがとう」という言葉で伝えたいです。

この作文は私の教え子が中3のこの時期に書いた作文です。志望校の選択、受験前の不安や焦り、揺れる思いがよくわかります。しかし、この生徒は進学した高校で大きく実力を伸ばし、念願であった第一志望の大学へ進学し今は社会人として活躍しています。このようにたくさん悩んだこと、苦労したことは決して無駄にはなりません。岐路に立っている3年生のみなさん、頑張ってください。